

<推奨コース>

Aコース 館山城～館山陣屋跡～慈恩院～妙音院～沼のびやくしん～沼サンゴ層～ヒカリモ [距離] 約3.8km [所要時間] 徒歩約60分

館山城 $\frac{6分}{500m}$ 館山陣屋跡 $\frac{3分}{230m}$ ① $\frac{2分}{140m}$ 慈恩院 $\frac{3分}{150m}$ 妙音院 $\frac{5分}{300m}$ ① $\frac{5分}{300m}$ ② $\frac{3分}{170m}$ ③ $\frac{2分}{140m}$ ④ $\frac{3分}{180m}$ 沼のびやくしん $\frac{3分}{180m}$ ④ $\frac{2分}{150m}$ ⑤ $\frac{1分}{20m}$ ⑥ $\frac{5分}{300m}$
 沼サンゴ層 $\frac{5分}{300m}$ ⑥ ヒカリモ $\frac{2分}{120m}$ ⑦ $\frac{1分}{90m}$ ⑧ $\frac{1分}{100m}$ ⑨ $\frac{5分}{330m}$ ⑩

<おすすめスポット>



館山陣屋跡(たてやまじんやあと)

慶長19年に里見氏の館山藩が廃藩となり、館山城も破却された後、しばらく藩はおかれませんでした。天明元年(1781)に旗本稲葉正明が安房国で加増をうけ1万石の大名になると館山藩を立て寛政3年(1791)に館山城南麓に陣屋を構えました。現在御屋敷と呼ばれているところで、当時の区画が残され、稲葉氏の霊を祀った貴美稲荷があります。



慈恩院(じおんいん)

曹洞宗の寺院で里見氏の菩提寺のひとつとして知られ、里見義康の墓があります。もと持仏堂と称し義康から寺領4貫800文を寄進され、江戸時代は15石の朱印地を幕府から与えられていました。境内には中世の石像や陽刻五輪塔もみられます。また著名人の墓も多く、館山藩の儒学者乙幡雲廊や、沼出身の藩絵師川名楽山、函館五稜郭の戦いで戦死した木下晦蔵、東京高等商業学校長坪野南陽などが知られています。



妙音院(みょうおんいん)

明治二十八年に、上総国の前田覺忍師が発願し、一山全体に四国霊場を遷した「安房高野山八十八ヶ所霊場」が開基されました。石工作りの大師尊象が一体一体名工の手を借り、高野山住職の開眼法要を受けて、約二年の歳月をかけてご奉納されました。大正時代には、関東大震災にて本堂、薬師堂が倒壊。しかしながら、檀信徒の協力のお陰ですぐに復興されました。時代が進み昭和初期、太平洋戦争東京大空襲の後、一発の焼夷弾が当院にも投下されました。本堂、庫裡、諸堂が焼失し、唯一焼け残ったのが鐘楼堂、山門でした。現在もなお鐘楼堂が、その当時の様子を物語っています。不思議な話だが、数々の戦災害を受けながら死者は勿論のこと、負傷者も出なかったと伝わっています。その理由の一つには、身代わり大師様、身代わり不動様を安置させて戴いている為と言われています。



沼のびやくしん

びやくしんはヒノキ科の植物で、宮城県以南の本州、四国、九州の海岸地帯に自生しています。「沼のびやくしん」は、十二天神社の境内にあり、県内で最も大きなビャクシンの木です。幹周(地上1.5mの樹幹周囲)7.45m、樹高は17mあり、枝張り東西20m、南北24m、かたちのよい樹容をみせています。地上2ないし4mで11本に枝分かれし、内1本は切断された跡があります。樹皮は縦に裂け、ねじれ上がっており、空洞もあります。推定樹齢は約800年で、この木にはハゼノキ、イヌビワ、シロダモ、マサキ、トベラなどが着生しています。館山市指定天然記念物(昭和36年10月21日指定)



沼サンゴ層(ぬまさんごそう)

サンゴ層は、沼の谷奥海拔20mの地点にあり、6000年～1500年前に形成されたもので、当時周辺が海だったことがわかります。沖積世の縄文海進にともなって形成された沼層といわれる地層に含まれた、造礁性サンゴの化石で、海進によってできた溺れ谷の汀線近くに生育していたサンゴが、その後の地盤運動によって隆起したと考えられています。当時の気候や地理などを知る上で貴重な資料となっており、千葉県天然記念物に指定されています。現在も館山市の海岸線では、造礁性のサンゴが生息しているのを見ることができますが、それらは世界に生息する造礁性サンゴの最北限に生きているものです。



⑥ ヒカリモ

「ヒカリモ」は、日本各地の水のきれいな洞窟や、山陰などの池に生息する藻類であり、館山市では沼地区の周辺の洞穴で観察することが出来ます。「ヒカリモ」は、顕微鏡でなければその姿や形を確認することができない程小さなものですが、洞穴内の水たまりなどに群生して浮かぶと、光線を反射して水面が黄金色に輝くことで知ら

れています